

修論編

答えてくれた先輩たち

人環・D STさん

人環・D NSさん

人環・D YKさん

人環・D WTさん

人環・D OSさん

※文中は敬称略

※D:博士課程

※取材協力:「総人のミカタ」

卒論・修論体験談
先輩たちは
こうしました。

「卒論編」「修論編」とも
「総人のミカタ」のみなさん
にご協力いただきました!



毎年好評いただいている先輩の卒論・修論体験談「先輩たちはこうしました」が今年も登場!どのように論文を執筆したか、当時のことを教えてもらいました。「卒論編」と「修論編」があります。ぜひ参考にしてみてください。また、昨年に引き続き「総人のミカタ」のみなさんにご協力いただきました!この場を借りてお礼申し上げます。

さらに「Library Newsletter」の七月号は「卒論・修論執筆応援号」となっています。前年度に論文を提出したばかりの先輩にロングインタビューを決定しましたので、こちらもぜひあわせてご覧ください!

先行研究探しのお手伝いや複写物・図書の取り寄せなど、図書館は執筆に取り組みあなたを全力でサポートします!お困りの際は調査・相談カウンターへどうぞお気軽にお尋ねください。

質問その1
修論のテーマは?

ST・樹木集団の縮小が宿主特異的菌根菌の分布と集団遺伝構造に及ぼす影響 ―絶滅危惧樹木ヤクタンゴヨウと新種ヤクタンシヨウ口の事例から―

NS・酸化チタン上の表面錯合体光励起による選択的炭素 ―炭素結合生成反応の開発。

YK・希土類賦活複合アニオン化合物の作製と光学特性評価。

WT・独立同分布でないランダム性を持つランダム複素力学系を数学的な観点から解析することがテーマです。詳しく言うと、複素力学系のジユリア集合をランダム性がある設定へと一般化し、その特徴を様々な観点から特徴付けることです。

OS・ケネディ政権の対アフリカ教育広報外交策定過程とその内容。

NS: 卒業論文のテーマの延長として。1か月ぐらい。

質問その2

テーマはどのように決めましたか？
かかった時間はどのくらいでしたか？

YK: M1の4月中に仮決定して、早速実験に取り掛かりました。その後M2の9月に、教授とディスカッションして最終的なテーマ(タイトル)を決定しました。

OS: M2の5月、学振の申請前までかかったので、1年以上。

ST: M1の4月に指導教官と相談して一度テーマを決めましたが、サンプルの入手の問題で、そのテーマの遂行が難しいことがM1の終わり頃にわかりました。そこで、M2の4月に手持ちのデータからストーリーを組み直し、指導教官の許可を得てテーマを変更しました。テーマの変更時にはすでにデータがあったため、テーマはすぐ思いつきましたが、指導教官にテーマ変更の相談に行くのは緊張しました。

WT: 自分が特に興味を持てるテーマの候補を3つか4つに絞り、その中で一番結果が出やすいものを選びました。その候補は、指導教官から提案されたものだったり、自分オリジナルのアイデアだったり様々です。M2になる頃にテーマを決めました。候補はM1の最初からなんとなく考えていました。

質問その5

最初に何から始めましたか？

ST: 文献集め。修論では学部で使ったことのない研究方法を用い、その結果をメインの内容にする予定でした。なので、まずはその手法に関する理解を深めることから始めました。

NS: データの整理、グラフの貼り付け。

OS: ポストンでの外交史料収集。

YK: 私の場合、研究室内で誰も取り組んだことのないテーマで、実験が上手くいくかどうかの見当もついていなかったもので、ひたすら実験に取り組み、待ち時間などを文献調査に充てていました。

WT: テーマを決める前は基礎的なことを徹底的に勉強しました。テーマを決めてからは、簡単なことでも新しいことを発見しながらそれをノートにまとめていきました。

質問その6

論文作成で気を配ったところはどこでしたか？

ST: 端的に書くこと。結論に関係ない結果を載せたり、ディスプレイが冗長になったりということがないように、気を配りました。

NS: ストーリー性。

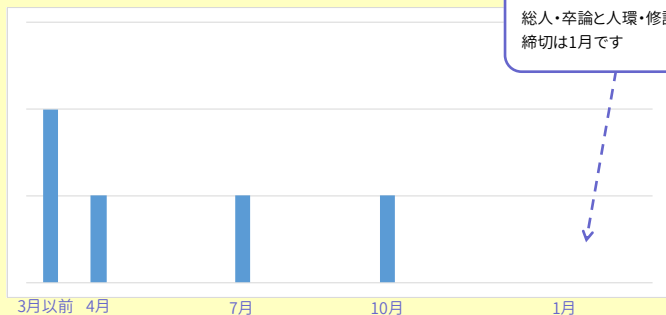
OS: 各章の論理構成がおかしくないようにすること、論文全体での章立て。

YK: 他者が読んで理解しやすいような構成を心掛けた。誤字脱字、表記ゆれなどにも細心の注意を払っていました。またデータのバックアップをこまめに取ることを意識していました。せつかく苦労して書き上げたものが不慮の事故によって失われると、完全に心が折れてしまうので、ローカルのHDDだけでなくクラウド上にも保存していました。

OS: 精神的に健康であることだけには注意しました。

質問その3

いつ頃から準備を
始めましたか？



ちなみに…
総人・卒論と人環・修論の
締切は1月です

質問その4

構成から完成まで、
論文執筆にかかった
期間は？

OS: 6か月。

WT: M2のはじめにテーマ候補の中から一つを選び、それに関することだけを集中して研究しました。論文をタイプしている時間は2か月程度です。実際に書く時間より、読み直したり校正したりする時間の方が長かったです。

YK: 修論ではそれなりにデータが豊富にあったので、M2の9月に教授とディスカッションして構成を決定し、提出2週間前にはほとんど完成していたので、4か月間ほどの期間でした。

質問その7

苦労したところは？それをどう
乗り越えましたか？

ST: 規定のページ数に収めること。指導教官と相談し、内容の取捨選択・図表の調整をしてページ数を減らしました。

NS: わかりやすい文章を書くこと。先輩の修論を参考にしつつ、何回も推敲して。

OS: とにかくテーマが決まらなかった。指導教官やテーマの近い教員と話し、広く論文や書籍を読んでいの中で、何となく今のテーマに決まった。

YK: 文献収集に苦労しました。実験系科学の場合も引用は重要ですが、膨大な数の学術論文に目を通し、そこから自分の卒論・修論に必要な論文だけをピックアップするのが、非常に骨の折れる作業でした。

WT: 校正にはかなりの時間がかかりました。気合いで乗り越えました。

質問その8

執筆の間、一番助けになったことはなんですか？

ST: 修論以外の作業。修論と並行して投稿論文を執筆したり、先輩の作業を手伝ったりしていたのですが、これらの修論以外の作業がいい気晴らしになりました。

NS: 投稿論文を一報出していたこと。

OS: 書いている最中でも適当に気晴らしに飲みに行ける友人が多かったのはよかった。

YK: 周りのいろんな方々が気にかけてくれるのが非常に助かりました。執筆中は確かに集中して書かないといけません。息抜きも兼ねて誰かと話をするのは重要だと思いました。

WT: 論文をタイプするときは音楽を聴いていました。それが助けでした。

質問その9

文献管理はどのようにしていましたか？

WT: 特殊なことはしておらず、ノートに書いておく程度でした。(今は Mendeley を使っています。)

NS: Mendeley。

OS: 管理ツールなどは使っていないが、Wordで参考文献一覧を作って、定期的にアップデートしていた。特に、外交文書を引用するときなどは、引用した瞬間に注をつけ、後でわからないことが無いように心がけてはいた。

ST: はじめはMendeley Desktopを使っていましたが、途中でZoteroに移行しました。

YK: 「Mendeley」という文献管理ソフトウェアを使用していました。



Mendeleyの他にもRefWorks や EndNote BasicといったWeb上で使える文献管理ツールがあります！詳しくは調査・相談カウンターへどうぞ。

質問その10

研究の醍醐味は何だと思えますか？

ST: 自分の好きなもの・興味のあることを突き詰められること、発見が尽きないこと。

NS: 論理的な面と突拍子もない面が両立しているところ。

OS: よくわからない。でも、外交史料を集める研究なので、海外に定期的に行けるという楽しみはある。

YK: 「研究開発」になります(系統的な理論に則って何か材料を作り、それが優れた物性を示した時の達成感と高揚感を味わうことができる)ことだと思います。

WT: 自分のやりたいことをできることです。誰かの命令に従う必要は(少なくとも私の分野には)ないし、お金や名誉のためでもなく、ただ興味があることだけを追求できるのが醍醐味です。

質問その11

「これだけは言っておきたい」アドバイスをお願いします

ST: 思い悩みすぎないこと。うまくいかないこともあると思いますが、困ったときは、抱え込みすぎずに先生や先輩に相談することを勧めます。

NS: ゆっくりと着実に急ぎましょう。

OS: わからないことがあれば必ず信頼できる人間にすぐ相談すること。指導教官である必要は必ずしもない。あと、酒に逃げすぎないように。

YK: ぜひ誠心誠意取り組んで、自信をもって他者に伝えることができるものに仕上げてください。

WT: 構想は大きくても、手動かすときは小さいことから頑張らしましょう。苦労したことは後で報われます。苦労を避けて近道しても、いずれ向き合つてきます。